



南房総の風し

指導室では、計画訪問や要請訪問をとおして、多くの授業を参観させていただいております。今号では、訪問をとおして見えてくる授業改善へのアドバイスをまとめてみました。

1. 「学び方を学ぶ」

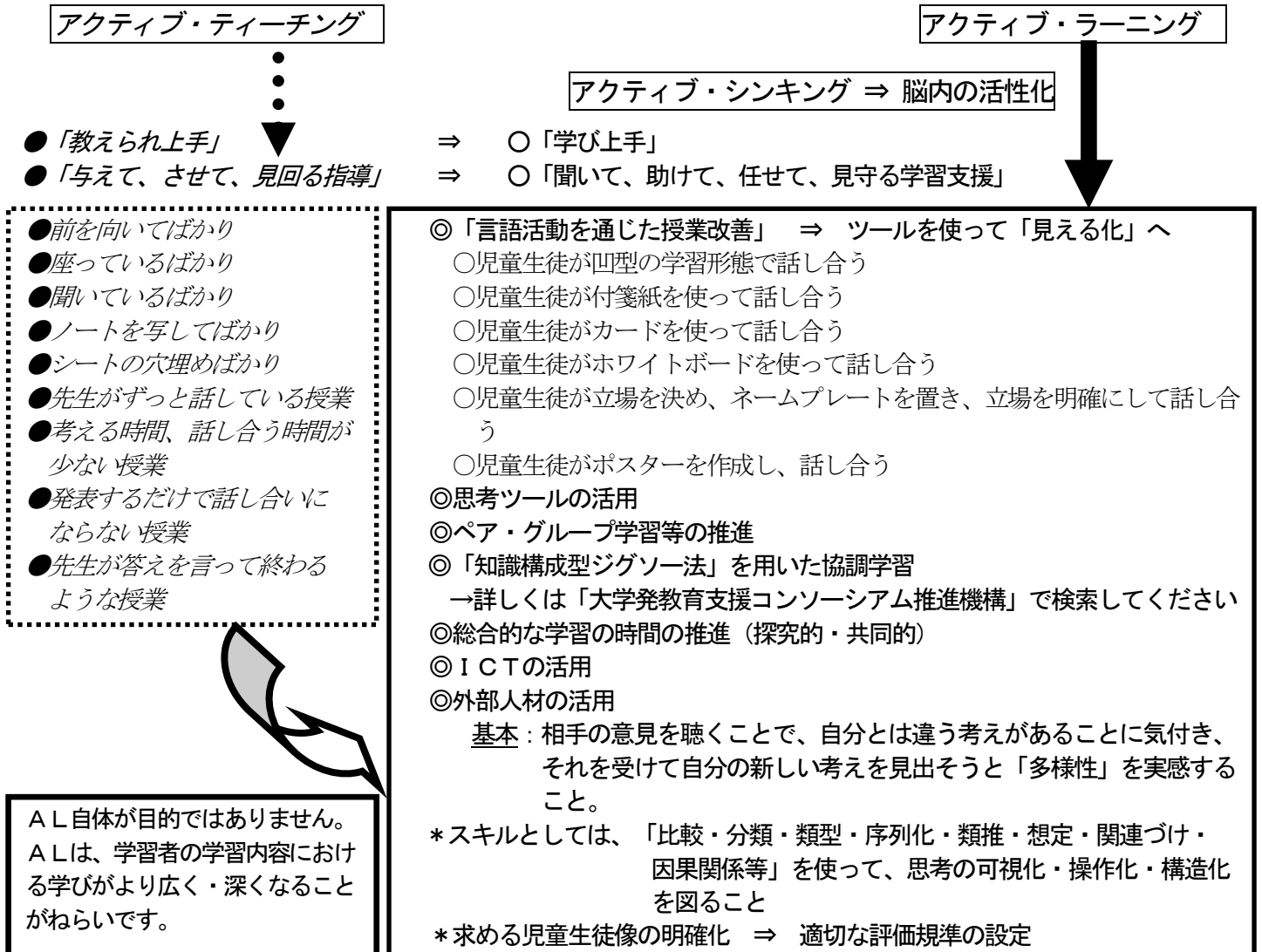
国語	社会	算数・ 数学	理科	生活	音楽	図工・ 美術	保体	技家	外国語	道徳	総合	特活
言語活動（聞く・話す・読む・書く）・拳手方法・発表の仕方・ペアや全体のルール・ノートの使い方・まとめ方・振り返りの方法・問題解決型の学習過程など												

学びの2層構造の2階部分の教科教育と併せて、1階部分の教科経営（教科横断的な学習指導）の部分充実させることが大切です。教科に共通するものを串刺しにしていくということです。

子供たちは、『学び方を学ぶ』ことにより、全教科を意欲的に学ぶようになります。

なお、この学び方を、全校の中で、あるいは、小中学校間で共有することで、「学習のスタンダード化」が図られ、子供たちは、どの学級、どの学年、どの教科、どの小学校からの出身であっても、同じ学び方ができます。

2. 「知識習得型」から「問題解決型」への転換を図る学習過程（主体的・協働的な学習へのステップ）



3. 「教えたこと」を絞る

- ⇒ 素材研究・教材研究・指導法研究のバランスが大切
- ⇒ 授業で行き詰まったら、いつでも、教材研究に戻ることに。
- ⇒ 教師は、「教えたこと」を、教えてはいけない。教えたら、子供は何も学ばない。
そのためには、教師は、「教えたこと」を「学び」に転化する作業をすることが必要。

4. 授業の骨格

目標 (ねらい) — 手立て — 評価

- ⇒ 目標 (ねらい) がすべて。学習問題の設定に全力投球。児童生徒自身の問題にすることに傾注すべき。
- ⇒ 教師が与えた課題 ⇒ 負の連鎖が起こる (教師主導・一問一答式・「活動あって学びなし」等)
- ⇒ 思考型の学習問題への切り替え
- ⇒ 「ねらい — 学習問題 — 手立て — まとめ — 評価 (規準・基準)」の一体化と整合化

- A : 活動型** 「工業の盛んな地域を白地図に色をぬろう」
技能教科に多い。「活動あって学びなし」になる危惧と隣り合わせ。
- B : 事実認識型** 「工業の盛んな地域は、どのようなところに多いのだろうか」
調べた結果がそのまま答えになる。「こうすればいい」という解答を出すことが授業のめあて。
- C : 思考型** 「なぜ、海沿いや交通の便利なところでは工業が盛んなのだろうか」
問題解決型。活動を通して認識したことが解答。そこに至るまでが思考。

5. 「学習の見通し」をもたせること

- ⇒ 「ああ、こうすれば解決できるかも！」 (解決する内容と解決の方法があることが前提)
- (29) 学習の目標・見通しをよく行った学校の割合 (%) <27年度全国学力学習状況調査より>

	全国	秋田	千葉	南房総教育事務所管内
小	71.1	97.7	73.1	77.6
中	56.3	90.7	65.2	78.6

「メタ認知とは、自分の行動・考え方・性格などを別の立場から見て認識する活動をいう。」 (デジタル大辞泉)

6. 「学習の振り返り」をさせること

- ⇒ 授業での自分自身の変容を書かせること
- ⇒ 何ができるようになったのか、どうしてわかるようになったのか ⇒ **メタ認知**を意識すること
- ⇒ 観点を学校で決める ⇒ ・何がわかったか、わからなかったか・友達から学んだこと・もっと知りたいこと
- (30) 学習の振り返りをよく行った学校の割合 (%) <27年度全国学力学習状況調査より>

	全国	秋田	千葉	南房総教育事務所管内
小	47.6	77.9	50.1	45.6
中	34.2	67.8	32.0	31.4

7. 「全国学力・学習状況調査」結果の分析をし、全職員で共有すること

- ⇒ 分析結果を踏まえ、1単位時間の具体的な授業改善を図ること
- ⇒ 例：「考えを深める場」を必ず設定する、ペア対話、グループ対話、自分の考えを必ずノートに書くなど。
- (50) 自校の分析・結果の共有をよく行った割合 (%) <全国学力学習状況調査より>

	全国	秋田	千葉	南房総教育事務所管内
小	48.3	68.1	29.9	22.4
中	40.4	66.9	29.1	21.4

8. 下位児童生徒への支援と併せて、上位児童生徒を伸ばす指導

- ⇒ 基礎基本 (知識・技能・理解) と活用応用 (思考力・表現力・判断力) は、両輪
- ⇒ 両輪をバランスよく回すこと (山登りに例えれば、日常の足腰の鍛錬と併せて、山登りもする)
- ⇒ 上位の良さを広げ、クラス内の競争や切磋琢磨をとおして、クラス全体の底上げを図っていくこと

◎ 「授業こそ、最大の生徒指導」

- ⇒ よい授業者は、よき生徒指導ができる教師
- ⇒ 生徒指導の三機能「自己決定・自己存在感・共感的理解」
- ⇒ 「わかる・できる」授業の実践を。

(文責 : 指導主事 西 克夫)

